

助産外来・院内助産の開設・実施の人材育成研修（フェーズⅠ・フェーズⅡ）

－フェーズⅠ：助産師の実践能力の強化－

－フェーズⅡ：開設に向けての企画・実施・評価能力の獲得－

1. 背景

分娩取り扱い施設の減少が相次ぐ中、安心・安全で快適な出産の場の確保は喫緊の課題である。厚生労働省は、平成20年6月に「安心と希望の医療確保ビジョン」を策定し、医師と看護職との協働の充実をあげている。「(助産師が) 医師との連携の下で正常産を自ら扱うよう、院内助産所・助産師外来の普及等を図るとともに、専門性の発揮と効率的な医療の提供の観点から、チーム医療による協働を進める。」と述べている。すなわち、助産師が、安心・安全な出産に向けて、医師と協働して専門性を発揮すべきであると明示された。

また厚生労働省は、平成20年より助産外来・院内助産の開設のための施設整備や助産師等への研修について、都道府県と共に補助金事業として行っている。また厚生労働省科学研究費補助金事業等を通して、院内助産システムに関するガイドラインを策定し、本システム推進の整備を行っている。これらの動きを反映して全国の病院における助産外来設置数は、平成20年273施設、平成21年353施設となり、院内助産は平成20年31、平成21年47と増加傾向にある（厚生労働省看護課調べ）。

本会では、平成16年より助産師職能委員会が、病院に勤務する助産師の専門性を発揮できる場の一つとして、助産外来・院内助産に関する取り組みをはじめた。そして、平成20年度より安心・安全な出産環境の実現に向けた「院内助産システムの推進」を重点事業として、3カ年計画に基づいて取り組んでいる。本事業の全国的な推進を図るために、平成21年度は院内助産システム推進プロジェクトにおいて、標記研修プログラム（案）を検討し、策定した。平成22年度は標記研修を実施・評価し、平成23年度以降に都道府県看護協会や関連団体等において実施できる拡がりのあるモデル研修に位置付けられることを目指す。

2. 目的

本研修は、助産外来・院内助産の開設を検討および実施している施設に勤務する助産師を対象とし、助産外来・院内助産を開設・実施する人材を育成することを目的としている。研修内容は2つのフェーズで構成され、研修生が自身や施設のニーズに応じて受講内容を選択できる。フェーズⅠは助産実践能力を強化すること、フェーズⅡは助産外来・院内助産に関する企画・立案・実施・評価できる能力を獲得することを目的としている。なお、フェーズⅡについては、研修の間に、研修参加者が各自の職場で実践を展開する期間（2～3ヶ月間）を設けている。

本研修の実施により、院内助産システムの普及を図り、ひいては、安心・安全な出産環境の実現を目指す。

3. 目標

フェーズⅠ：助産外来・院内助産の実施に関する知識および技術を理解し、実践できる。

研修後の自施設における実践をとおして、適切に自己評価を行い、実践能力を強化することができる。

フェーズⅡ：助産外来・院内助産の開設に関する情報が得られるとともに、自施設において開設の準備または実施に向けての方向性、ならびに実施内容を評価する能力が獲得できる。

4. 対象

- ・助産外来・院内助産の開設を検討および実施している施設に勤務する助産師

フェーズⅠ 100名、フェーズⅡ 50名

※産科領域における勤務経験が5年以上であり、分娩介助件数が100例程度であること

5. 研修において習得すべき能力

研修において習得すべき能力は以下のとおりであるが、研修受講対象者により、必要となる能力は異なる。また研修の実施主体の施設・設備や受講者の状況によって、選択できる教育方法は異なる。研修プログラムを組む際には、この点を考慮する必要がある。

また、すべての能力を短期間で向上させることは現実的ではないことから、集合研修に加え、研修後の自施設におけるOJTにおいて能力を高めていく。

- 1) 助産外来・院内助産実施に必要な妊娠期～産褥期および新生児期の診断とケア能力
 - ・妊婦・褥婦健康診断に必要な技術を有し、アセスメントに基づくケアを提供できる。
 - ・胎児心拍陣痛図（CTG）を判読でき、適切に対応することができる。
 - ・超音波診断法を補助的手段として活用できる。
 - ・分娩の進行と産婦のニーズに応じた適切な分娩ケアを選択でき、分娩を介助することができる。
 - ・妊産褥婦のニーズや希望に応じた適切な育児支援体制を整備することができる。
 - ・緊急時および異常時に、医師と協働して、救急処置が行える。
- 2) 助産師、医師および関係職種と協働できる能力
 - ・質の高い産科医療ケアを提供するため、医師と協働して、基準等の作成や情報を共有することができる。
 - ・看護・助産ケア提供体制の整備および実施のため、関係職種と協力して取り組める。
- 3) 助産外来・院内助産の企画・立案・実施・評価ができる能力
 - ・組織の意向を理解しながら、主体的に計画立案ができる。
 - ・目標を設定でき、助産外来・院内助産の実施に向けた計画が立てられる。
 - ・助産外来・院内助産に関する社会資源を活用した実施体制を構築できる。
 - ・実施の質を確保し保障するために、機能評価等を行い、改善につなげることができる。

6. 研修における習得すべき能力の位置づけと研修の基本的な流れ

本研修では、助産師およびその就業施設のニーズに応じて、受講するフェーズを選択できる。「フェーズⅠ」と「フェーズⅡ」を一つずつ受講する場合と、「フェーズⅠ」と「フェーズⅡ」を連続して受講する場合がある（図1）。

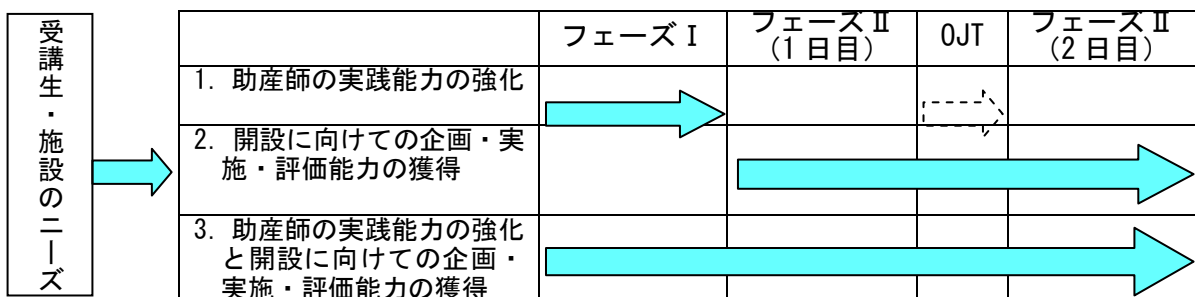


図1 研修の受講スケジュール

フェーズⅠ・Ⅱを受講する研修生は、研修の前の事前アンケートをとおして、自己評価と課題の明確化を行い、各々の研修を受講する。2日間にわたり開催するフェーズⅠでは、助産外来・院内助産の実施に必要な妊娠期～産褥期および新生児の診断とケア能力（総論・各論）について、講義および演習をとおして、現在の知識や技術を体系的に再構築する。そして、助産師、医師および関係職種との協働についても整理し、今後の取り組みに対する動機付けとする。受講後は、自施設においての実施を通して、本研修で習得した知識や技術を深めていく。

フェーズⅡでは、1日目に助産外来・院内助産の開設・実施に関する準備内容や方法について、講義を通して理解する。また、その後のOJT期間（3ヵ月程度）において、自施設で準備等をすすめられるために、ワークショップ等を通して方向性を見出す。研修生は、フェーズⅡの1日目と2日目の間に実施する中間アンケートをとおして、研修2日目に向けて、自施設の課題を認識する。そして、研修2日目において各研修生の発表や意見交換を通して、自施設における今後の課題や解決するための方策を明確にする（図2）。

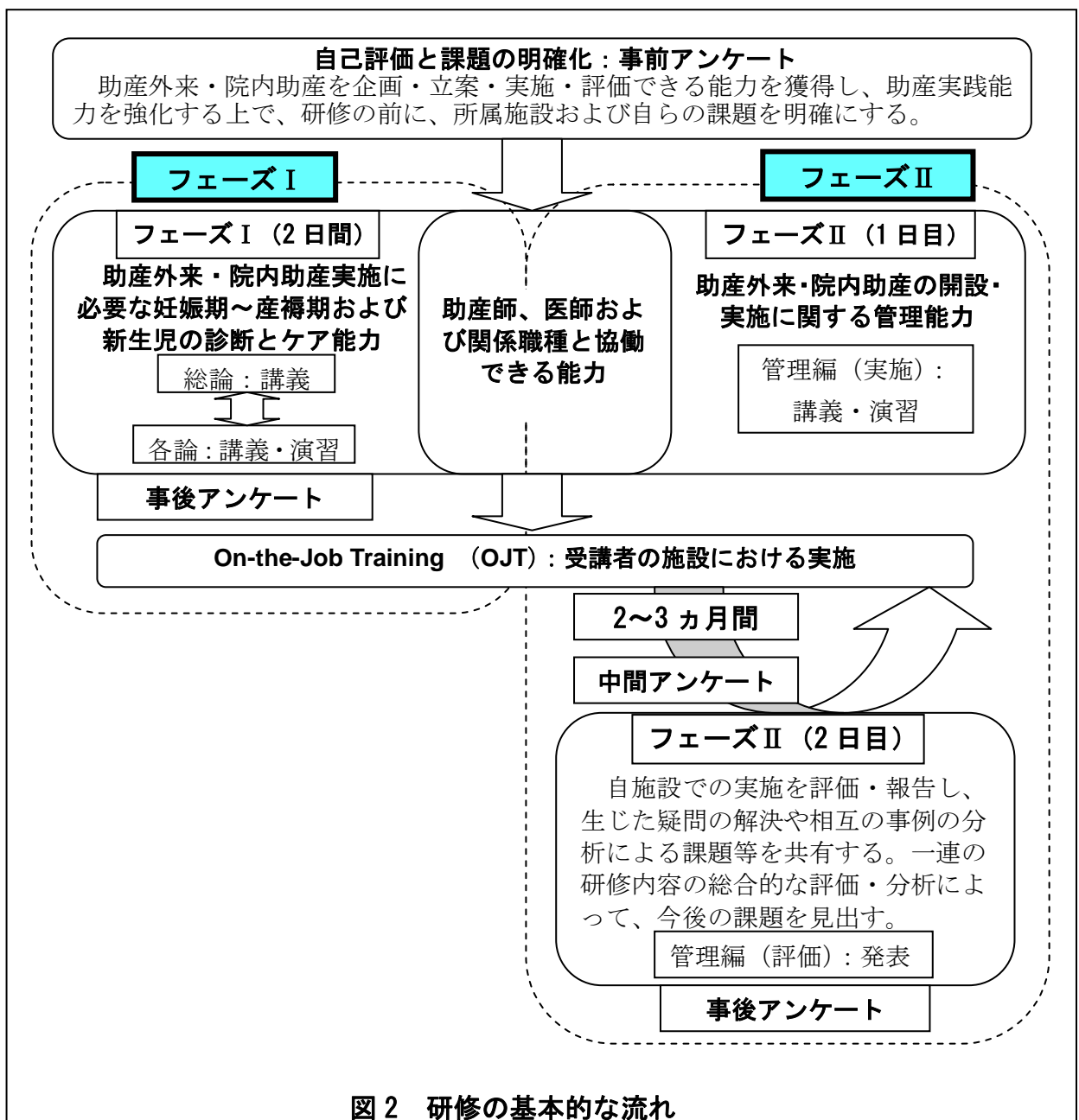


図2 研修の基本的な流れ

7. 研修実施体制

本研修の実施主体は、平成 22 年度については看護研修学校、神戸研修センターである。平成 23 年度以降は、都道府県看護協会、行政、関係団体等を含めた実施主体の拡大について検討する。

研修実施主体は、研修プログラムの内容に応じた講師の設定・講義構成の調整・演習等の進行を行う。また、研修希望が多数の場合、受講者の選定を行う。

8. 研修プログラムの内容（別紙 1-1～1-2）

フェーズⅠのプログラムは、総論「周産期医療提供体制における助産師の役割」「妊娠期～産褥期および新生児期の診断とケア能力（総論）」と各論「妊婦・褥婦・新生児健康診断に必要な技術とアセスメント」「分娩期に必要な技術とアセスメント」「産褥期に必要な技術とアセスメント」「異常時の救急処置・医師との協働」により構成される。

フェーズⅡは、管理編（実施）「助産外来・院内助産の開設・実施」と管理編（評価）「助産外来・院内助産の評価・まとめ」の内容である。

9. 研修の評価方法

本研修は、受講生に対してアンケートを実施し、研修プログラムおよび研修受講者の能力習得に関する評価を行う。

10. 参考資料

- 1) 遠藤俊子；「分娩拠点病医の創設と産科 2 次医療圏の設定による産科医師集中化モデル事業」助産師活用システムー助産師外来推進のための諸課題に関する研究、2008 年
- 2) 日本助産師会；「助産師外来・院内助産所を始めるために」2009 年 8 月、2010 年 2 月開催研修
- 3) 島根県健康推進課；「助産師外来等開設支援事業における助産師研修開催要領」、2008 年
- 4) 福井トシ子編著；成功する助産外来・院内助産所計画・開設・運営マニュアル～計画・立案・企画書作成・広報活動から運営ノウハウのすべてがわかる、メディカ出版、2009 年
- 5) 社団法人日本産科婦人科学会；産婦人科研修の必修知識、2007 年
- 6) 日本産科婦人科学会編；産科婦人科研修手帳、2009 年

8. 研修プログラムの内容

	分野	科目	ねらい	主な内容	教育方法
フェーズ1 (助産師の実践能力の強化)	総論	1) 周産期医療提供体制における助産師の役割	①産科医療提供体制の現状や地域・妊産婦のニーズを把握することにより、産科医療提供体制の変革に向けた取り組みの動機づけとなる。 ②助産師の役割および医師・関係職種との協働について再認識し、リスクに応じた看護・助産提供体制(助産外来・院内助産)の実施に向けた動機づけとなる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修のねらい ・周産期医療の現状 ・妊産婦および地域のニーズ ・助産師の自律と責務 ・院内助産システム(助産外来・院内助産) ・医師・関係職種との協働 	講義
		2) 妊娠期～産褥期および新生児期の診断とケア能力(総論)	①妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期における助産診断に必要な項目およびケアについて、体系的に再学習できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・正常経過および異常の診断とケア(総論) 	講義
	各論	1) 妊婦・褥婦・新生児健康診断に必要な技術とアセスメント	①妊婦と褥婦の健康診断に必要な技術を強化することができる。特に、超音波診断を補助的診断として活用できる技術の習得に向けた動機づけとなる。 ②妊婦・褥婦と新生児の状況をアセスメントし、個別性に応じた保健指導能力を強化できる。また、リスクに応じたケアを提供する動機づけとなる。	<ul style="list-style-type: none"> ・骨盤外測法、レオポルド触診法、ザイツ法 ・妊婦、褥婦および新生児の身体と心および生活に対する支援(コミュニケーション技術と保健指導など) ・超音波診断法の基礎と方法(※基礎的な知識や異常兆候等を画像を通して理解する。) ・ケーススタディ(グループワーク) 	講義 (演習)
		2) 分娩期に必要な技術とアセスメント	①分娩の進行、胎児の状況や産婦のニーズをアセスメントし、それに応じた分娩体位を選定し、分娩介助する能力を強化できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・胎児心拍陣痛図(CTG)の新しい判読基準と判読方法 ・分娩体位と分娩介助技術(※ビデオ学習) 	講義 (演習)
		3) 産褥期に必要な技術とアセスメント	①母親の希望に即した授乳方法に対する乳房ケアを強化できる。 ②母親、新生児および家族の地域生活の中で、利用できる社会資源および活用方法を把握し、個別性に応じたケアへの動機づけになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳育児支援 ・育児相談、地域(行政・保健師)との連携(※ビデオ学習) 	講義 (演習)
4) 異常時の救急処置・医師との協働	①正常を逸脱した場合および緊急時に、医師と協働し、救急処置を行える能力を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期～産褥期および新生児期の異常時の救急処置と医師との協働 ・ケーススタディ(グループワーク) 	講義 (演習)		
フェーズ2 (開設に向けての企画・実施・評価能力の獲得)	管理編(実施)	1) 助産外来・院内助産の開設・実施	①上司、同僚や関係職種と協力し、地域における施設の役割に応じた助産外来・院内助産の実施に向けて、準備できる手法を学び、自施設における準備・実施への動機づけとなる。 ②助産外来・院内助産の実施に関連する法規や、利用できる社会的資源とその利用方法を活用した開設準備の方向性を見いだせる。 ③医療安全を考慮した開設の準備・実施・評価の方向性を導き出せる。	<ul style="list-style-type: none"> ・助産外来・院内助産の企画と実施 ・妊産婦および地域のニーズの把握 ・管理者および関係職種との協働 ・現行の財政支援と申請方法 ・関連法規 ・医療安全を考慮した困難な状況・事故等への対応 ・評価方法 ・ケーススタディ(グループワーク) 	講義 演習
	管理編(評価)	1) 助産外来・院内助産の評価・まとめ	①開設準備や実施において生じた問題や疑問を解決できる。今後の自己の知識や技術および組織としての取り組み等の課題に対して解決できる方向性を見出すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク(実施報告) ・意見交換とまとめ ・関連法規 ・医療安全を考慮した困難な状況・事故等への対応 	報告会

※教育方法については、実施主体が、受講者数等に応じて適切な方法を選定する。

8. 研修プログラムの内容

	分野	科目	ねらい	主な内容	教育方法
フェーズ1 (助産師の実践能力の強化)	総論	1) 周産期医療提供体制における助産師の役割	①産科医療提供体制の現状や地域・妊産婦のニーズを把握することにより、産科医療提供体制の変革に向けた取り組みの動機づけとなる。 ②助産師の役割および医師・関係職種との協働について再認識し、リスクに応じた看護・助産提供体制(助産外来・院内助産)の実施に向けた動機づけとなる。	・本研修のねらい ・周産期医療の現状 ・妊産婦および地域のニーズ ・助産師の自律と責務 ・院内助産システム(助産外来・院内助産) ・医師・関係職種との協働	講義
		2) 妊娠期～産褥期および新生児期の診断とケア能力(総論)	①妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期における助産診断に必要な項目およびケアについて、体系的に再学習できる。	・正常経過および異常の診断とケア(総論)	講義
	各論	1) 妊婦・褥婦・新生児健康診断に必要な技術とアセスメント	①妊婦と褥婦の健康診断に必要な技術を強化することができる。特に、超音波診断を補助的診断として活用できる技術の習得に向けた動機づけとなる。 ②妊婦・褥婦と新生児の状況をアセスメントし、個別性に応じた保健指導能力を強化できる。また、リスクに応じたケアを提供する動機づけとなる。	・骨盤外測法、レオポルド触診法、ザイツ法 ・妊婦、褥婦および新生児の身体と心および生活に対する支援(コミュニケーション技術と保健指導など) ・超音波診断法の基礎と方法(※基礎的な知識や異常兆候等を画像を通して理解する。) ・ケーススタディ(グループワーク)	講義 (演習)
		2) 分娩期に必要な技術とアセスメント	①分娩の進行、胎児の状況や産婦のニーズをアセスメントし、それに応じた分娩体位を選定し、分娩介助する能力を強化できる。	・胎児心拍陣痛図(CTG)の新しい判読基準と判読方法 ・分娩体位と分娩介助技術 (※ビデオ学習)	講義 (演習)
		3) 産褥期に必要な技術とアセスメント	①母親の希望に即した授乳方法に対する乳房ケアを強化できる。 ②母親、新生児および家族の地域生活の中で、利用できる社会資源および活用方法を把握し、個別性に応じたケアへの動機づけになる。	・母乳育児支援 ・育児相談、地域(行政・保健師)との連携 (※ビデオ学習)	講義 (演習)
	4) 異常時の救急処置・医師との協働	①正常を逸脱した場合および緊急時に、医師と協働し、救急処置を行える能力を強化する。	・妊娠期～産褥期および新生児期の異常時の救急処置と医師との協働 ・ケーススタディ(グループワーク)	講義 (演習)	
フェーズ2 (開設に向けての企画・実施・評価能力の獲得)	管理編(実施)	1) 助産外来・院内助産の開設・実施	①上司、同僚や関係職種と協力し、地域における施設の役割に応じた助産外来・院内助産の実施に向けて、準備できる手法を学び、自施設における準備・実施への動機づけとなる。 ②助産外来・院内助産の実施に関連する法規や、利用できる社会的資源とその利用方法を活用した開設準備の方向性を見いだせる。 ③医療安全を考慮した開設の準備・実施・評価の方向性を導き出せる。	・助産外来・院内助産の企画と実施 ・妊産婦および地域のニーズの把握 ・管理者および関係職種との協働 ・現行の財政支援と申請方法 ・関連法規 ・医療安全を考慮した困難な状況・事故等への対応 ・評価方法 ・ケーススタディ(グループワーク)	講義 演習
	管理編(評価)	1) 助産外来・院内助産の評価・まとめ	①開設準備や実施において生じた問題や疑問を解決できる。今後の自己の知識や技術および組織としての取り組み等の課題に対して解決できる方向性を見出すことができる。	・グループワーク(実施報告) ・意見交換とまとめ ・関連法規 ・医療安全を考慮した困難な状況・事故等への対応	報告会

※教育方法については、実施主体が、受講者数等に応じて適切な方法を選定する。

研修領域：特別企画

対象者：助産外来・院内助産の開設を検討および実施している施設に勤務する助産師100名

※産科領域における勤務経験が5年以上であり、分娩介助件数が100例程度あること

コース目標：助産外来・院内助産の実施に必要な診断・ケアに関する知識および技術について、講義（一部ビデオ演習等）をとおして理解する。

研修日	時間	科目名（テーマ）	ねらい	講師（案）
1日目 清瀬 7/14 (水) 神戸 9/1(水)	9:30～ 9:40	オリエンテーション		
	9:40～ 10:30	周産期医療提供体制における助産師の役割	<ul style="list-style-type: none"> 産科医療提供体制の現状や地域・妊産婦のニーズを把握することにより、産科医療提供体制の変革に向けた取り組みの動機づけとなる。 助産師の役割および医師・関係職種との協働について再認識し、リスクに応じた看護・助産提供体制（助産外来・院内助産）の実施に向けた動機づけとなる。 	○助産師 全体を総合的に把握している教育・行政
	10:30～ 12:00	助産外来における妊婦および褥婦に対する健康診断技術・アセスメントと身体と心および生活に対する支援（健康教育・相談）	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠期・産褥期および新生児期における助産診断に必要な項目およびケアについて、体系的に再学習できる。 妊婦と褥婦の健康診断に必要な技術を強化することができる。 妊婦・褥婦と新生児の状況をアセスメントし、個別性に応じた保健指導能力を強化できる。また、リスクに応じたケアを提供する動機づけとなる。 	○助産師 （実施施設） または ○開業助産師 ／○妊産婦
	12:00～ 13:00	昼食		
	13:00～ 15:30	妊娠期・産褥期の異常とその対応（超音波診断法の基礎的知識を含む）	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠期および産褥期の異常兆候について、超音波診断を補助的診断として活用できる知識を習得する。 正常を逸脱した場合および緊急時に、医師と協働し、救急処置を行える能力を強化する。 	○産科医師
	15:30～ 16:30	妊娠期の異常・医師との協働（ケーススタディ）	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠期に、正常を逸脱した場合および緊急時に、医師と協働し、救急処置を行える能力についてケーススタディをとおして強化する。 	○助産師

研修日	時間	科目名（テーマ）	ねらい	講師
2日目 清瀬 7/15 (木) 神戸 9/2(木)	9:30～ 11:00	分娩期の診断・ケア能力と必要な技術・アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩期における助産診断に必要な項目およびケアについて、体系的に再学習できる。 ・分娩の進行、胎児の状況や産婦のニーズをアセスメントし、それに応じた分娩体位を選定し、分娩介助する能力を強化できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○助産師（実施施設） または ○開業助産師
	11:00～ 12:00	分娩期の異常とその対応	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩期における助産診断に必要な項目およびケアについて、体系的に再学習できる。 ・正常を逸脱した場合および緊急時に、医師と協働し、救急処置を行える能力を強化する。 	○産科医師
	12:00～ 13:00	昼食		
	13:00～ 14:30	胎児・新生児の異常とその対応（胎児心拍陣痛図を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児期における助産診断に必要な項目およびケアについて、体系的に再学習できる。 ・正常を逸脱した場合および緊急時に、医師と協働し、救急処置を行える能力を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○産科医師 ○新生児科医師
	14:30～ 15:30	産褥期の退行性変化と進行性変化に必要な診断・ケア能力と必要な技術・アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の希望に即した授乳方法に対する乳房ケアを強化できる。 ・母親、新生児および家族の地域生活の中で、利用できる社会資源および活用方法を把握し、個別性に応じたケアへの動機づけになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○助産師（実施施設） または ○開業助産師
	15:30～ 16:30	分娩期の異常・医師との協働（ケーススタディ）	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩期に、正常を逸脱した場合および緊急時に、医師と協働し、救急処置を行える能力について、ケーススタディをとおして強化する。 	○助産師

※清瀬・・・看護研修センター 〒204-0024

東京都清瀬市梅園 1-2-3

※神戸・・・神戸研修センター 〒651-0073

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 国際健康開発

センタービル 4 階

助産外来・院内助産の開設・実施の人材育成研修 フェーズⅡ（研修2）

研修領域：特別企画

対象者：助産外来・院内助産の開設を検討および実施している施設に勤務する助産師 50名

※産科領域における勤務経験が5年以上であり、分娩介助件数が100例程度あること

コース目標：助産外来・院内助産の開設・実施に関する情報について、講義および演習をとおして習得でき、自施設において開設準備または実施することができる。

研修日	時間	科目名（テーマ）	ねらい	講師
1日目 清瀬 7/16 (金) 神戸 9/3 (金)	9:30～ 11:00	助産外来・院内助産の開設・実施（総論）	<ul style="list-style-type: none"> ・上司、同僚や関係職種と協力し、地域における施設の役割に応じた助産外来・院内助産の実施に向けて、準備できる手法を学び、自施設における準備・実施への動機づけとなる。 ・助産外来・院内助産の実施に関連する法規や、利用できる社会的資源とその利用方法を活用した開設準備の方向性を見いだせる。 ・医療安全を考慮した開設の準備・実施・評価の方向性を導き出せる。 	○プロジェクト委員
	11:00～ 12:30	助産外来・院内助産の開設・実施施設の報告	<ul style="list-style-type: none"> ・助産外来・院内助産の開設・実施に関する実施報告をとおして、具体的にイメージすることができる。 	○管理者（実施施設）
	12:30～ 13:30	休憩		
	13:30～ 16:30	グループワーク 1※1 「助産外来・院内助産の開設に向けて」 ※グループワークポイント ・妊産婦と地域ニーズ ・施設の現状分析 ・意義・目的の明確化 ・企画書の作成 ・組織との交渉 ・助産師の育成 ・システムの整備 ・実施の質保証 ・妊産婦のニーズ・認知・広報 ・医師や他部門との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・助産外来・院内助産の開設・実施に関するグループワークをとおして、自施設における実施の方向性をイメージすることができる。 	○助産師（実施施設） ○管理者／師長（実施施設） ※演習補助者 8名
2～3ヶ月間のOJT期間を設定する				

※1 グループワークは、5～6名毎に発表と質疑応答

研修日	時間	科目名 (テーマ)	ねらい	講師
2日目 清瀬 10/15 (金) 神戸 12/15 (水)	9:30～ 9:40	オリエンテーション		
	9:40～ 12:30	グループワーク 2※ ¹ 「助産外来・院内助産の開設準備・実施に関する今後の課題の明確化に向けて」 ※グループワーク ポイント ・妊産婦と地域ニーズ ・施設の現状分析 ・意義・目的の明確化 ・企画書の作成 ・組織との交渉 ・助産師の育成 ・システムの整備 ・実施の質保証 ・妊産婦のニーズ・認知・広報 ・医師や他部門との連携	<ul style="list-style-type: none"> グループワークをとおして、開設準備や実施において生じた問題や疑問について解決できる。また、今後の自己の知識や技術および組織としての取り組み等の課題に対して解決できる方向性を見出すことができる。 	○助産師 (実施施設) ○管理者 / 師長 (実施施設) ○助産師 全体を総合的に把握している教育・行政 ○職員 ※演習補助者 8名
	12:30～ 13:30	昼食		
	13:30～ 14:30	発表 (グループワークの内容)	<ul style="list-style-type: none"> 他施設の発表をきくことで、開設準備や実施において生じた問題や疑問について解決できる。また、今後の自己の知識や技術および組織としての取り組み等の課題に対して解決できる方向性を見出すことができる。 	上記 9:40～12:30 と同様
	14:30～ 15:30	質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> 質疑応答を通して、開設準備や実施において生じた問題や疑問について解決できる。また、今後の自己の知識や技術および組織としての取り組み等の課題に対して解決できる方向性を見出すことができる。 	
15:30～ 16:30	講評・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 開設準備や実施において生じた問題や疑問について解決できる。 今後の自己の知識や技術および組織としての取り組み等の課題に対して解決できる方向性を見出すことができる。 	○助産師 全体を総合的に把握している教育・行政	

※1 グループワークは、5～6名毎に発表と質疑応答